

水産資源（マグロ）調査※

竹内 淳一・阪本 俊雄

本調査は遠洋水産研究所の委託を受け、昭和59年度水産資源（マグロ）調査委託費により実施した。和歌山県勝浦港は、近海マグロ延縄漁船（19～59トン型）の水揚港として、日本でも有数の港である。クロマグロ、ビンナガマグロ、キハダマグロ、メバチマグロなどの資源評価と漁況予測のための基礎資料の蒐集地として重要であり、昭和54年度から指定調査地の一つとなり本調査が開始継続されている。

目 的

マグロ資源変動機構の究明、マグロ漁業の計画生産ならびに漁況予察体制などに必要な基礎資料（漁期・漁場・魚種別の体重組成など）を計画的に収集する。

方 法

昭和59年度水産資源（マグロ）委託調査要綱（陸上）にもとづいて調査を行った。

勝浦港に入港するマグロ延縄船について次の項目を調査した。

- (1) 水揚物の魚体調査の対象となった航海について、船名、総トン数、許可番号、第1回と最終回の操業年月日、操業回数、水揚年月日、出入港名とその年月日
- (2) 漁獲魚種とその尾数、主な漁場位置と漁期（年月）、漁法
- (3) (2)にもとづく魚種別の体重組成

なお、上記(1)、(2)の項目については、勝浦漁業協同組合畑中利之氏に調査を委託した。上記(3)の項目については、一尾ごとのマグロ類の体重が記録されている「単価帳」（勝浦漁業協同組合）を利用した。

結 果

昭和59年度に調査した漁船隻数を月別に示したのが、表1である。

調査結果は、「まぐろ漁業漁況調査票」と「まぐろ魚体調査票」に記入し、遠洋水産研究所に報告した。

近年、クロマグロ資源の増加のきざしと高い関心が寄せられているので、表2および図1にクロマグロの体重組成（1984年1月～12月、勝浦）を示した。

体重組成のピークは、40～60kgの小型魚と120～160kgの大型魚の2つに大別される。前者はまき網による漁獲であり、後者が延縄によるものである。

※ 漁業資源調査費による。

表1 月別調査隻数

1984年	4月	10隻	
	5月	6隻	
	6月	3隻	
	7月	6隻	
	8月	7隻	
	9月	0隻	
	10月	7隻	
	11月	7隻	
	12月	12隻	
	1985年	1月	9隻
		2月	1隻
		3月	5隻
合計		73隻	

表2 クロマグロの体重組成 (勝浦港、1984年1月~12月、内臓を除外した体重である。)

階級巾	尾数	階級巾	尾数
6 ~ 10 kg	1	151 ~ 155 kg	17
~ 15		~ 160	17
~ 20	1	~ 165	20
~ 25	1	~ 170	11
~ 30		~ 175	11
~ 35	3	~ 180	9
~ 40	13	~ 185	13
~ 45	23	~ 190	6
~ 50	26	~ 195	12
		~ 200	1
~ 55	36		
~ 60	34	~ 205	7
~ 65	16	~ 210	3
~ 70	14	~ 215	4
~ 75	3	~ 220	2
~ 80	1	~ 225	4
~ 85	1	~ 230	2
~ 90	2	~ 235	5
~ 95	6	~ 240	1
~ 100	6	...	
		~ 265	1
~ 105	7	合計	484
~ 110	15		
~ 115	10		
~ 120	10		
~ 125	23		
~ 130	17		
~ 135	19		
~ 140	17		
~ 145	16		
~ 150	17		

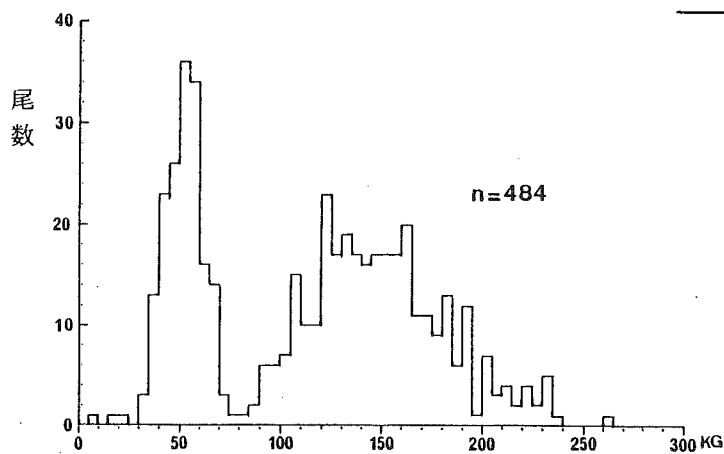


図1 クロマグロの体重組成
(勝浦港、1984年1月~12月)